

別紙（１）

港湾、漁港およびその他の港の施設の構造

1 施設基準高

1-1 防波堤、港護岸、天端高

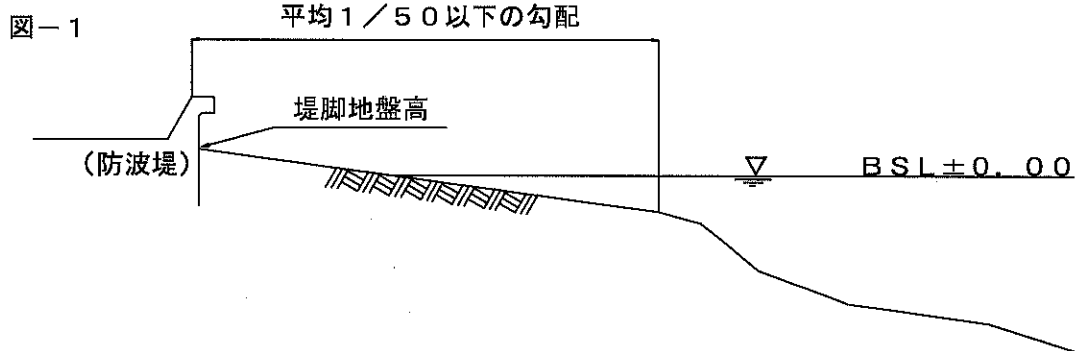
表-1

	防 波 堤		港 護 岸
	前浜が無い場合	前浜が有る場合	
北 湖 北 部	BSL+2.30m	BSL+1.90m	BSL+2.80m
北 湖 南 部	2.10	1.60	2.50
南 湖	1.90	1.60	2.20

ただし、現位置対策となる場合は、原則として現有施設高さとする。
 上表で前浜がある場合とは、次の条件を満足している場合に適用する。

○北湖北部・・・堤脚地盤高がBSL±0.00m以上で、沖に向かって平均地盤勾配1/50以下が50m以上続いている場合。

○北湖南部および南湖・・・堤脚地盤高がBSL+0.30m以上で、沖に向かって平均地盤勾配1/50以下が50m以上続いている場合。



1-2 泊地敷高、航路敷高

表-2

	満載喫水	泊地敷	航路敷	船の種類等
地方港湾	2.00m	BSL -4.50m	BSL -4.50m	大型観光船、定期船等
	1.50m	-4.00m	-4.50m	中型観光船、 "
県費支弁港 第一種漁港	1.00m	-3.50m	-4.00m	小型観光船、定期船 大型漁船(300t以上)等
	0.50m	-3.00m	-3.50m	一般漁船 3.0t未満
舟溜り	-	-3.00m	-3.50m	

1-3 けい留施設高

- | | | |
|---------|------------|------------|
| ○ 湾内施設高 | 舟溜り | BSL+1.000m |
| | ※
その他港湾 | BSL+1.500m |

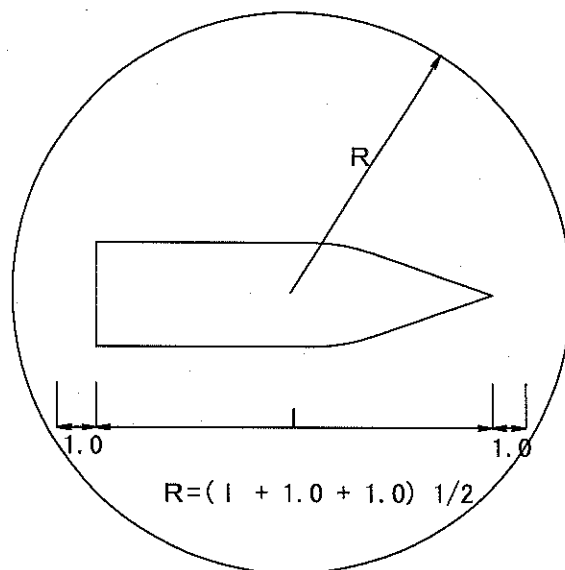
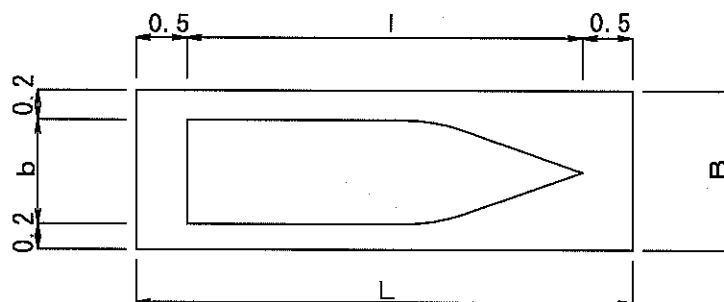
※ただし、周辺現有施設高さが BSL+1.50m未満の場合は BSL+1.00m以上 1.50mまでの (10cmラウンド)の現地盤最高高さとする。

- 物揚場最下段高 BSL-0.500m
- 船揚場先端部高 BSL-2.000m

2 施設規模

2-1 泊地面積、けい船長

- (I) 観光船、定期船等については、棧橋等考慮のうえ別途扱いとする。
- (II) 漁船のけい留面積、旋回面積

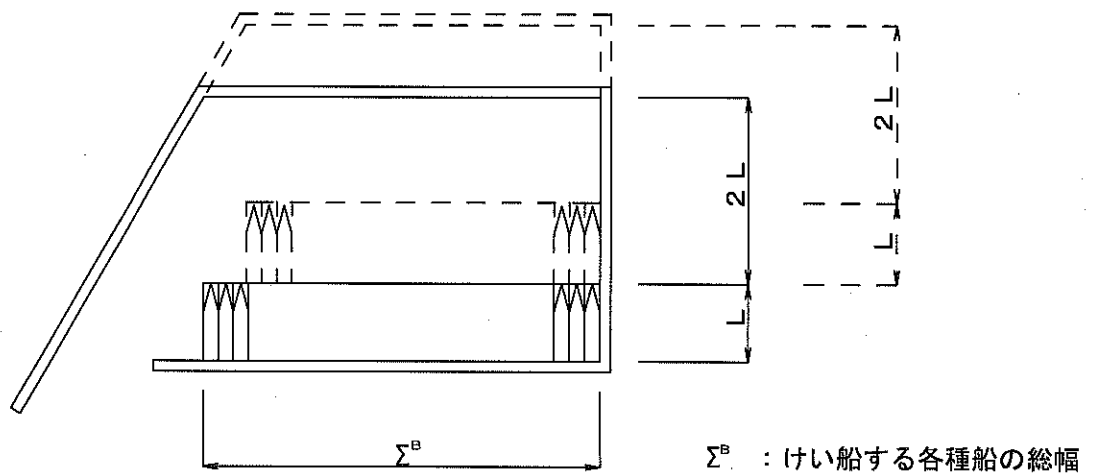


- l : 船 長
- b : 船 幅
- L : けい留船長
- B : けい留船幅
- R : 旋回半径

$$R = (l + 1.0 + 1.0) / 2$$

(Ⅲ) 泊地、けい船長

図-3 直角けい船



※2段けい船の場合、2段目は $\Sigma \times 0.7$ を標準とする。

図-4 斜けい船

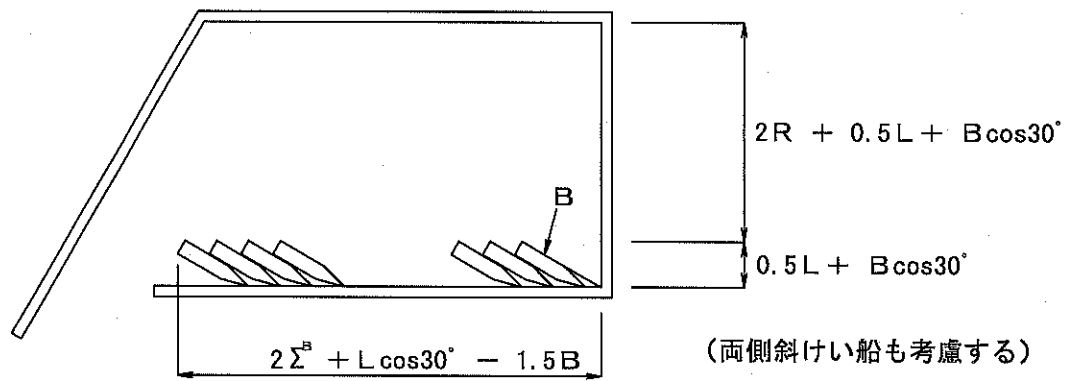
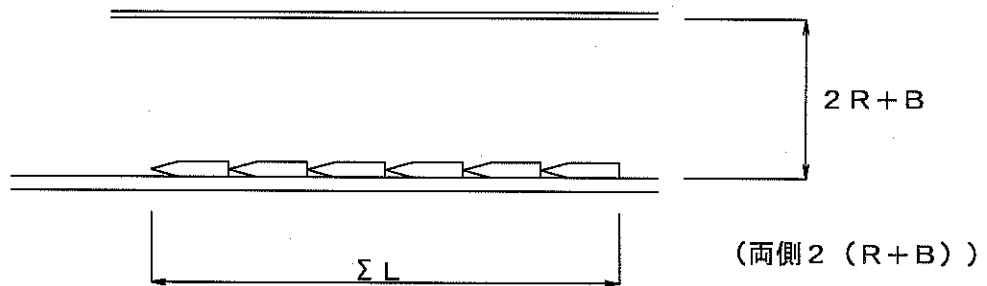


図-5 平行けい船



2-2 航 路

2-2-1 航 路 幅

(I) 地方港湾・・・・・・別途扱いとする。

(II) 県費支弁港、第1種漁港

波浪等の影響、航路延長、船舶の種類、その他を勘案して下表を標準とする。

表-3

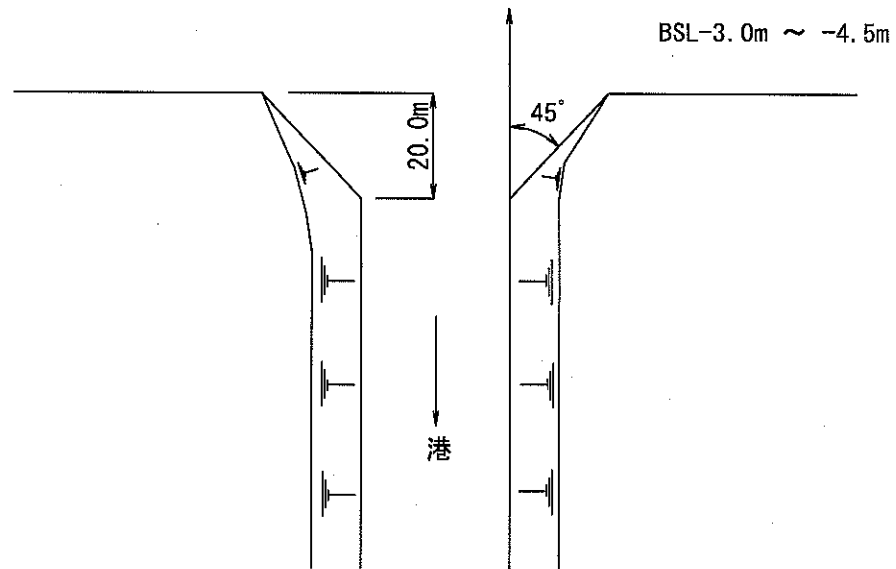
項 目	航 路 幅		
	30m	20m	10m以下
波浪、標砂 等の影響	受けやすい	普 通	受けにくい
船 種	3.0トン～ 4.99トン級	1.0トン～ 2.99トン級	0.0トン～ 0.99トン級

(III) 舟溜まり・・・・・・上表に準ずるが最大は20mとする。

2-2-2 航 路 浚 渫

(I) 掘削法勾配・・・・・・1：5を標準とする。

(II) 航路入口部の形状は下図を標準とする。

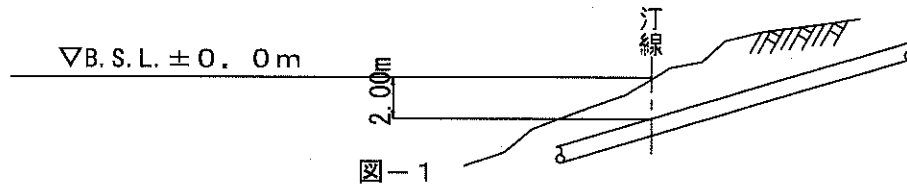


航路入口部の形状

1 管 埋 設

1-1 湖底に埋設する場合

イ) 管埋設高さは、汀線において計画施設高さを、B.S.L. - 2.00m以下とする。



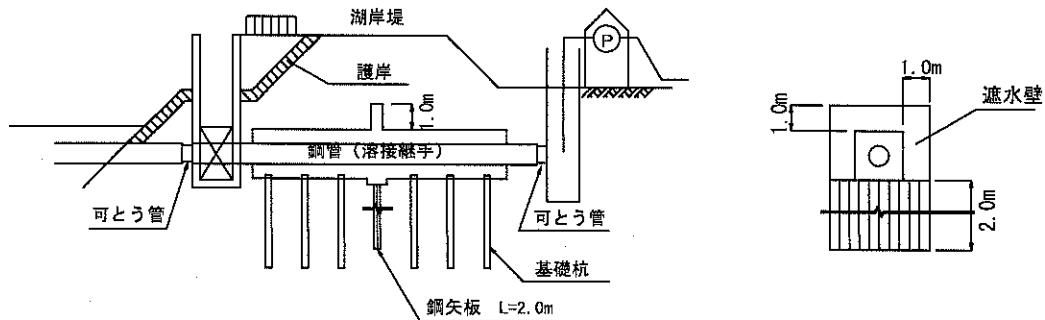
ロ) 湖底に埋設する場合は、0.5m~1.0mの土かぶりを標準とする。

ハ) 湖底に布設する場合は、船の航行・操漁に支障のないところに設置し、固定するものとする。

1-2 湖岸堤下に埋設する場合

イ) 湖岸堤下に埋設する場合は、下記事項を標準とする。

a. 埋設断面は、下図を標準とする。



b. 湖岸堤の堤外側に、ゲートまたはバルブを設置する。

c. 堤体地盤下5m以内の導水管は、コンクリートで360°巻立てる。
5m以下にあるものは、必要に応じて対策する。

d. 堤体中央部に遮水壁を設ける。ただし、当該管が堤防裏法尻より堤内地において、50m以上連結して地盤下にある場合は、設けなくてよい。

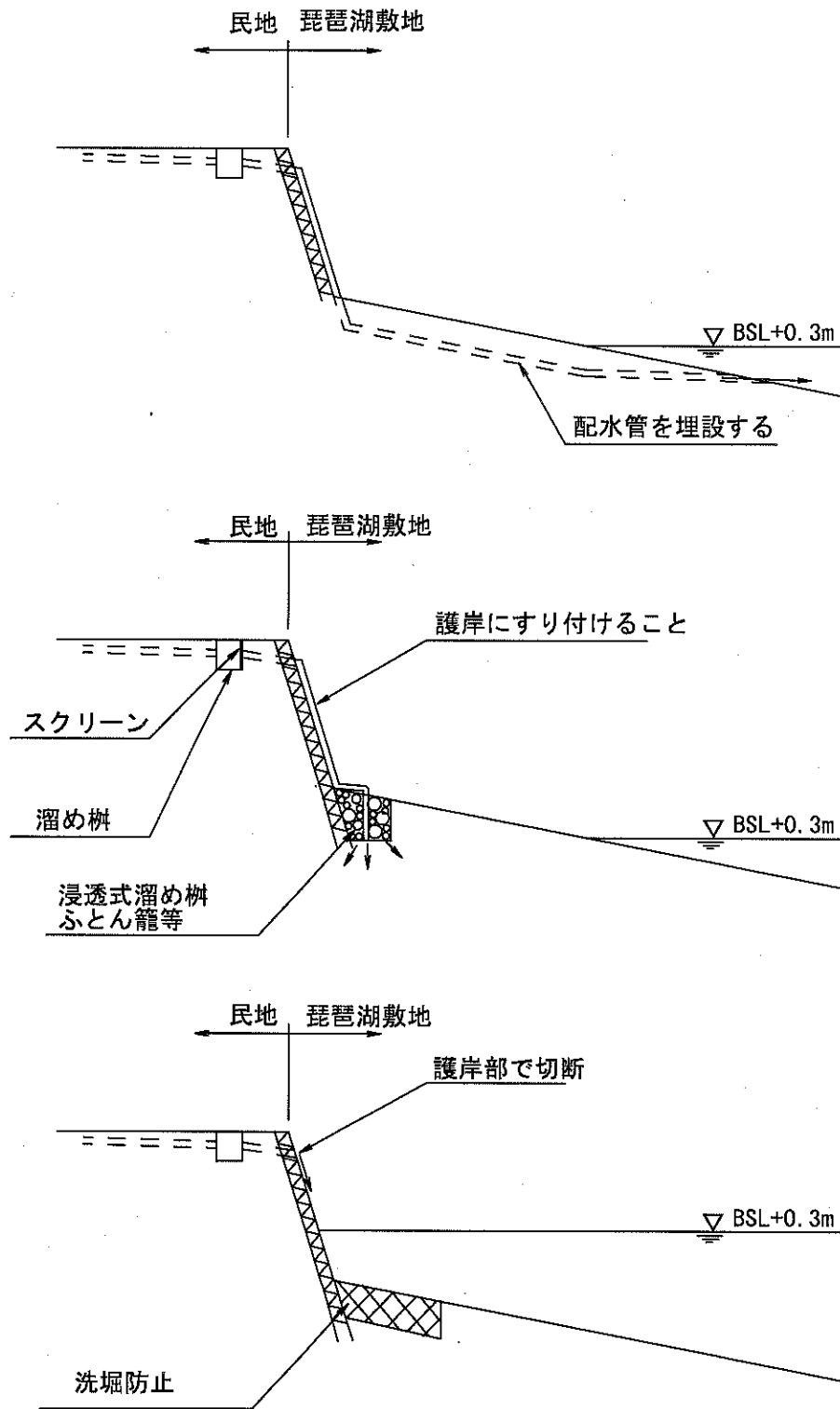
e. コンクリート巻立ては、原則として基礎杭を施すものとする。

f. 構造物との取付箇所には、可とう管を設ける。

g. 堤外側両サイド10mは護岸を行う。

排水施設の構造

図-13



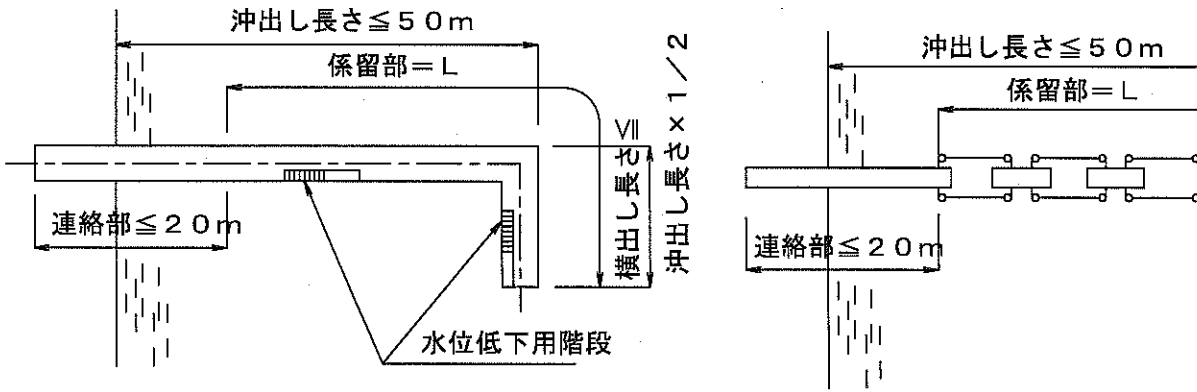
栈橋等の構造

図-14

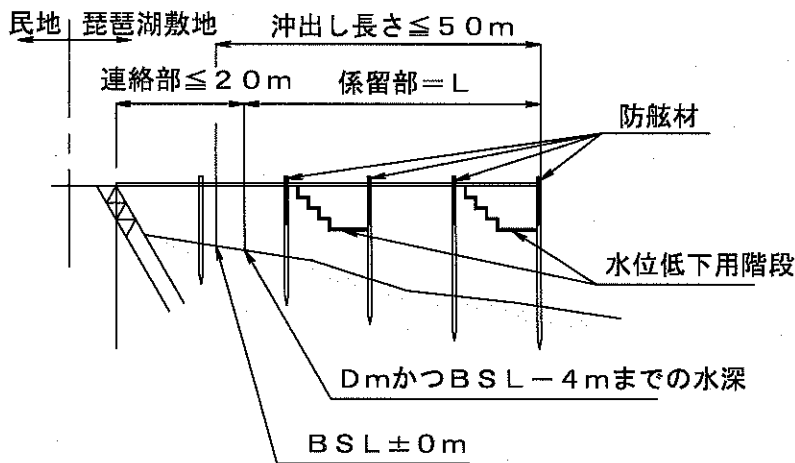
平面図

固定形式

浮き形式



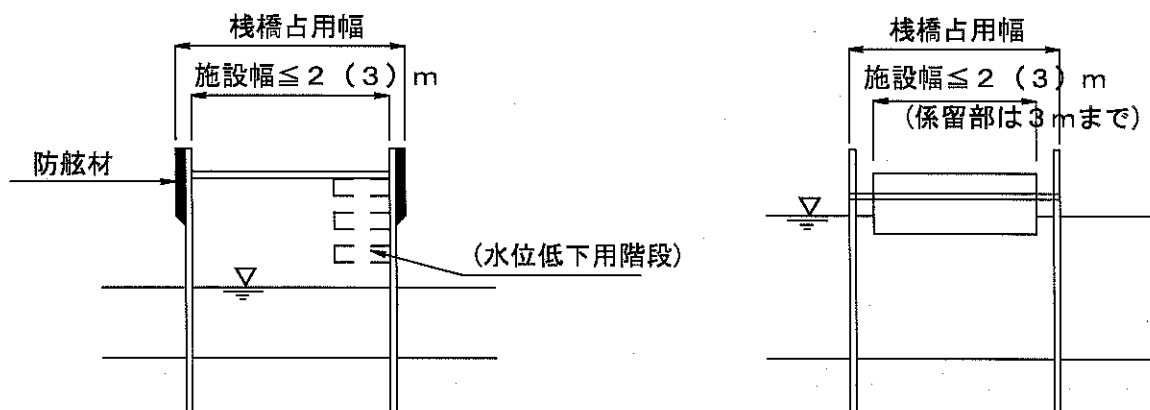
側面図



横断図

固定形式

浮き形式



揚陸施設の構造

図-15

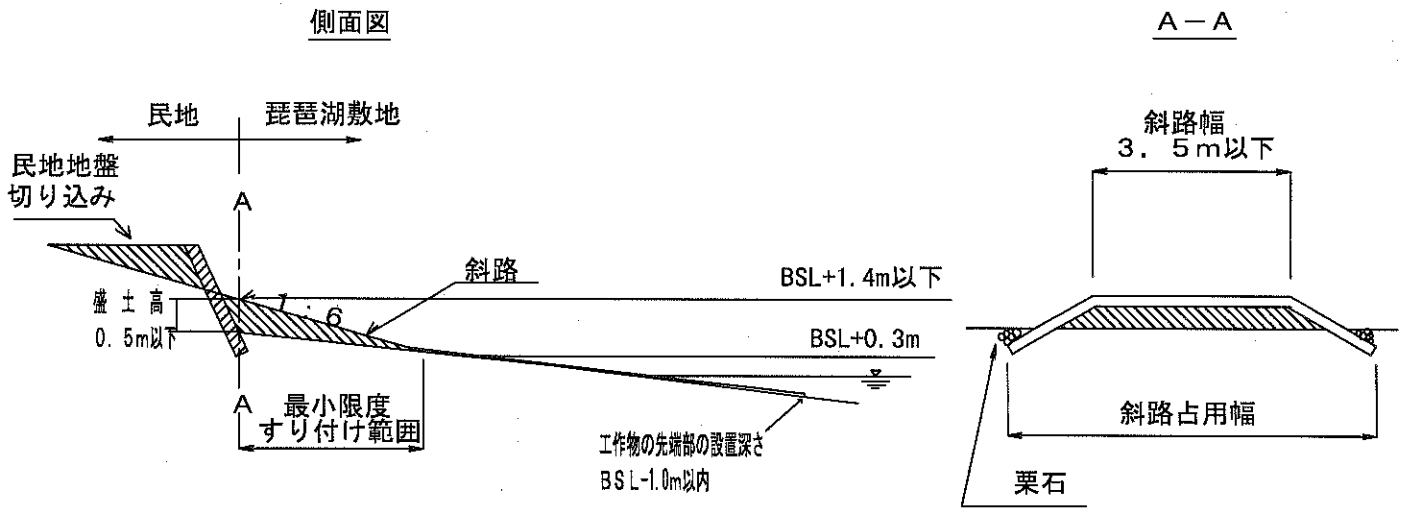


図-16

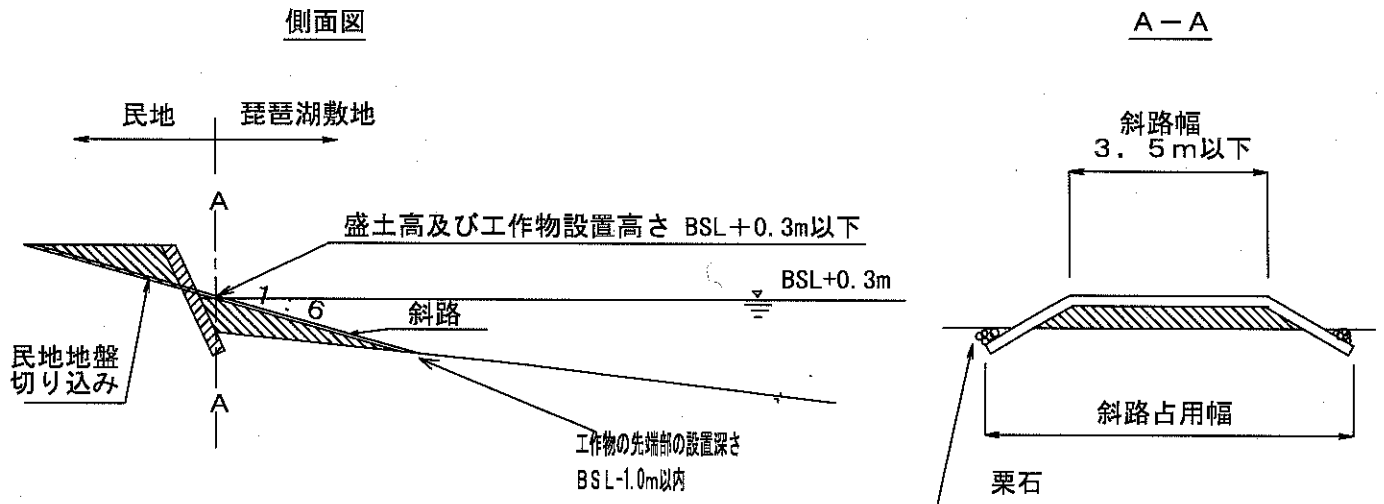


图-17

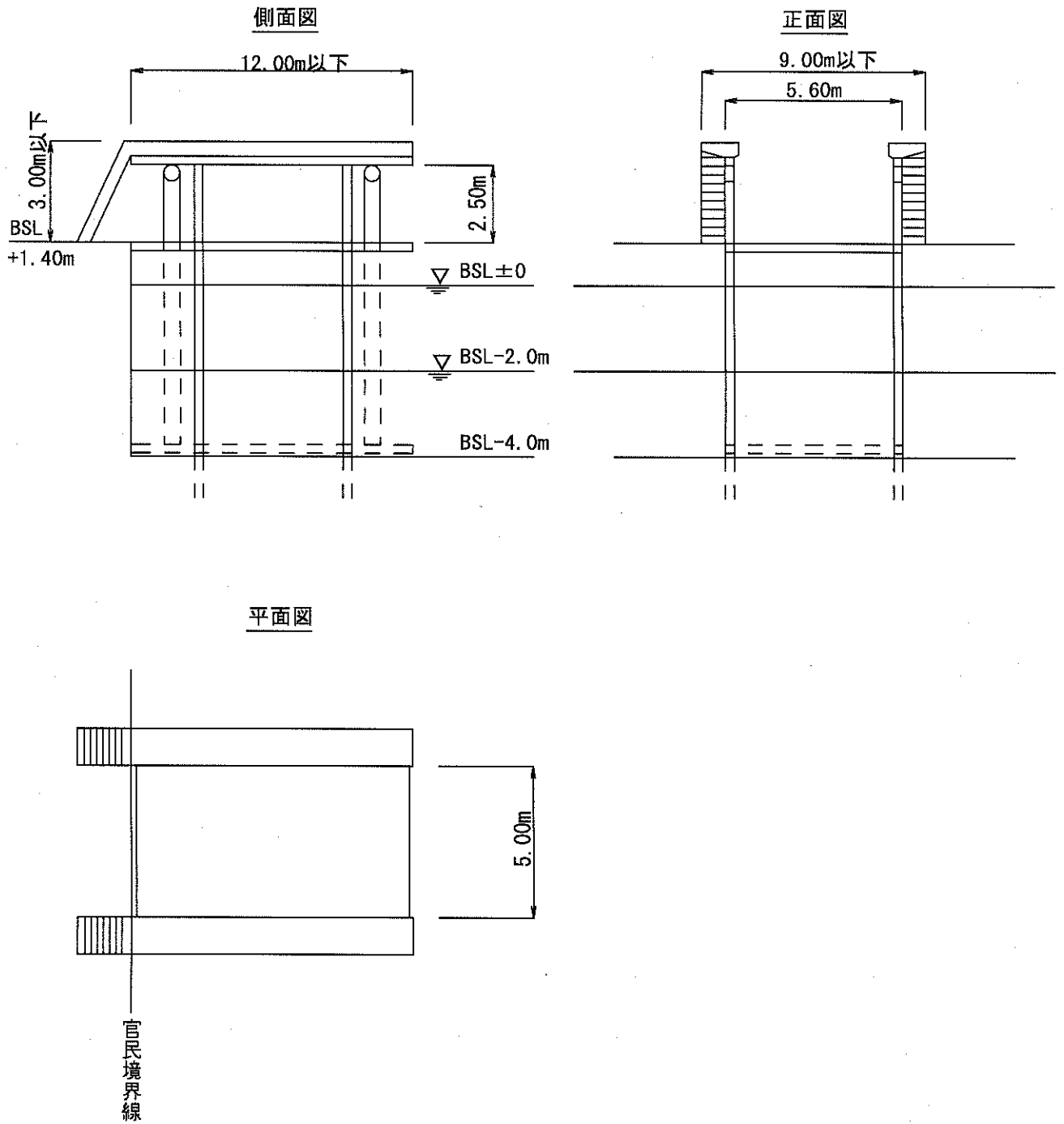


表-3

棧橋幅 b' メイン棧橋 2~3m b サブ棧橋 1~1.5m			
船長	パース長	スリップ	棧橋間距離 (最小値)
L	$B1 = (1.0 \sim 1.2)L$ $B2 = (1.5 \sim 2.0)L$	$S = (1.5 \sim 2.0)L$	$W1 = (\text{船幅}) + b + (0.3 \sim 0.6\text{m})$ $W2 = (2 \times \text{船幅}) + b + (1.5 \sim 2.0\text{m})$ $W3 = (\text{船幅}) + (1.0 \sim 2.0\text{m})$
注) クルーズーヨットに係留する場合には、風によるマスト同士の接触到留意して定めることが望ましい。			

表-4

一隻あたりの陸置面積

	艇の寸法 (船幅×船長)	通路を含む 必要面積
小型艇(3m以上5m未満。主としてディンギー)	2 × 5 m	20~25m
中型艇(5m以上8m未満)	3 × 8 m	30~50m
大型艇(8m以上10m未満)	4 × 10 m	60~80m

表-5

ボートヤード諸元

	マ ー ク 長	マ ー ク 幅	通 路 幅
L : 船長 B : 船幅	$A = (1.0 \sim 1.2) L$	$W = (1.0 \sim 1.5) B$	<ul style="list-style-type: none"> ・けん引車両を使用しない場合 $S = A$ ・移動用車両を使用する場合、移動用車両の回転半径を考慮して決定

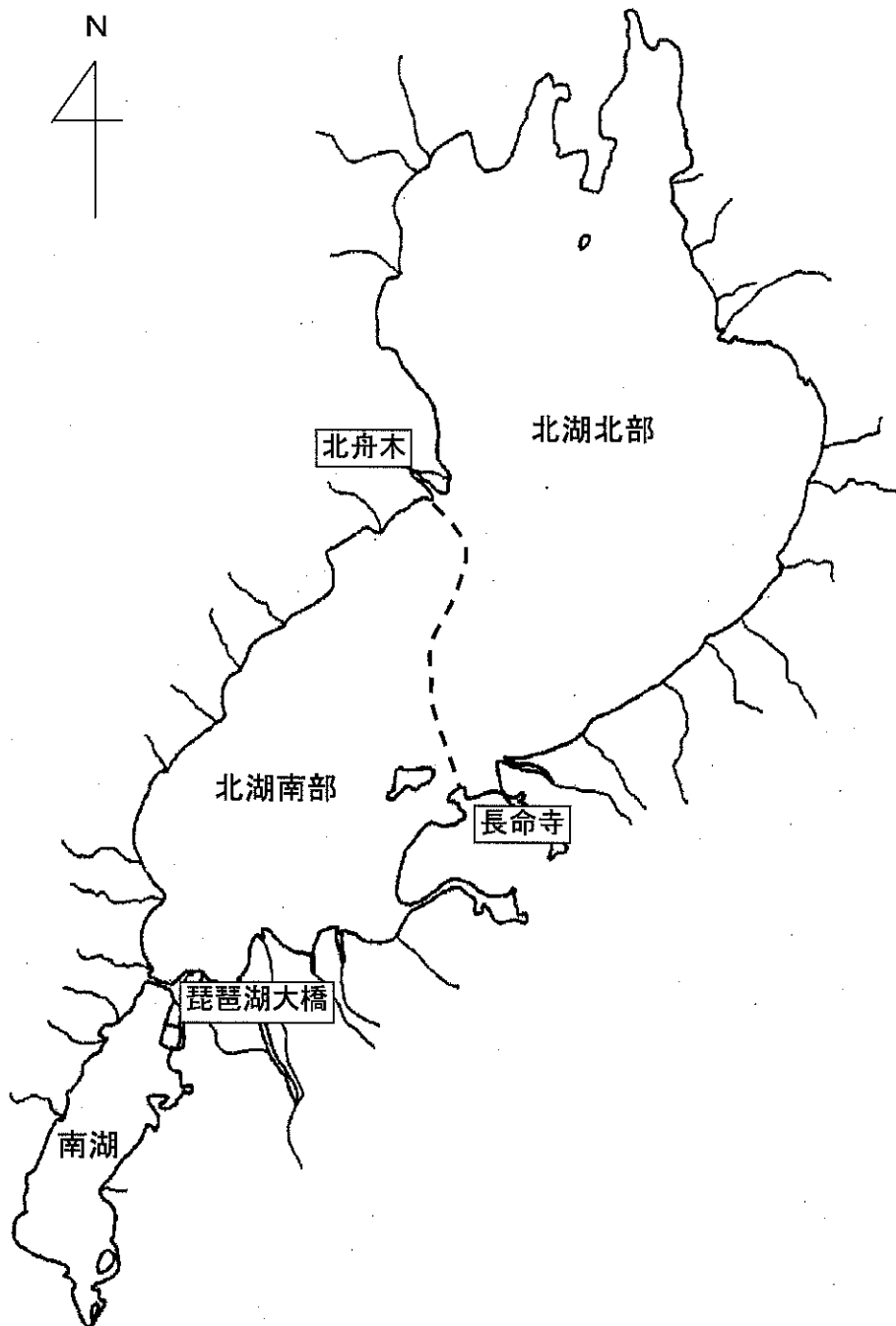
取水施設の構造

1 施設基準高

表-4

地域区分	種別	取水塔操作台施設及び 標識塔管理施設
北湖北部		B.S.L + 2.20 m
北湖南部		B.S.L + 2.10 m
南湖		B.S.L + 1.90 m

注)地域区分は、下図の地域割図による。



2 取水地点の選定

- (1) 取水地点は機能上必要な最短距離の位置とする。
- (2) 汚水の流入、湖底沈殿物のかく乱の影響、漂砂の影響、航路等について検討を行い決定する。

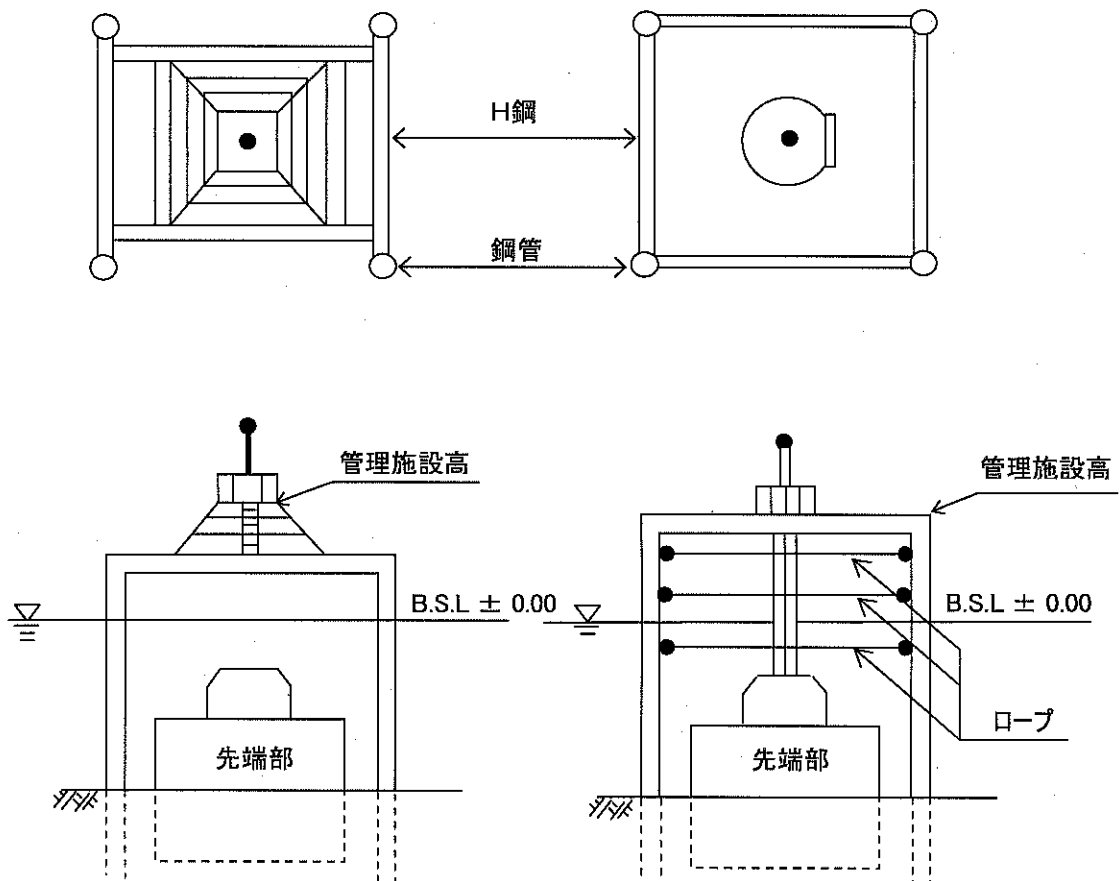
3 保安施設

- (1) 取水塔方式には、保安灯、避雷針等を設置することを標準とする。
- (2) 取水先端には、標識塔、防護柵または浮標を設置することを標準とする。
また、標識塔の電源は陸上部より引くものとする。

イ) 標識塔

標識塔は、下図を標準とする。

図-1



形式は、ヤグラ式及びポール式を標準とする。
標識塔は、交直両用標識灯とし、下表を標準とする。

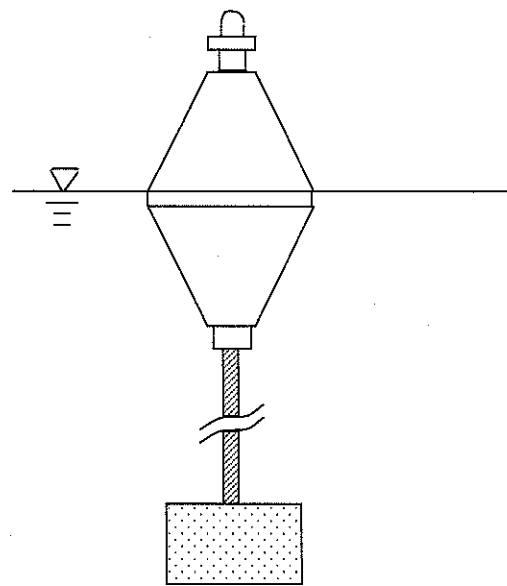
表-5 標識灯

名称	規格
灯器	2秒1閃
電球	6V3W(赤色)

標識灯の電源は、陸上側より引くものとする。

-) 浮標
 浮標は、下図を標準とする。
 浮標灯の電源は、電池式とする。

図-2



4 先端部掘削断面図

図-3

